

報 告 書

開 催 日 時	令和2年1月28日(火) 13時30分～15時38分	
開 催 場 所	消防本部 5階大会議室 (松江市学園南一丁目)	
出 席 委 員	出川桃子委員長、比良幸男副委員長、篠原栄委員、森脇勇人委員、津森良治委員、南波巖委員、新井昌禎委員、三島伸夫委員、田中肇委員	
	司 会 者	森脇勇人委員
	記 録 者	各委員
	報 告 者	篠原 栄委員
参 加 者	松江市消防本部 団長、副団長、方面団長 14名	
主な意見・要望 ・提言等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松江市全体での団員充足率は92%であり、全国平均より高い状況ではあるが、人口減少や高齢化により団員確保に苦慮している地域がある。なかには将来的な維持継続が不可能だと考えている地域もある。 ・ 一昨年から、消防団に関する検討委員会を設置して、消防団の班編成、機材、機庫などについて検討を続けており、会計報告や監査を行うなど仕組みを整えてきた。 ・ 活動服の背中に「松江市消防団」と書いてあることによって、地域の方や災害現場で大きな信頼を受けるとともに、責任も重いと団員に伝えている。 ・ 平成25年公布「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」は画期的な法律だと考える。消防本部と連絡を密にして、予算の範囲で効果的な装備品等の整備になるよう努めている。 ・ 車両や機材等の老朽化や、消防機庫にあっては、土地の返還の問題などが発生している。また、分団ごとで必要と考える装備品が異なっており、それぞれの分団で整備を行っているところもある。 ・ 消防団支援自動販売機は、支援自動販売機を設置し、その売り上げの一部を支援いただくもので、行政機関にも設置していただくとありがたい。 ・ 消防団の活動には勤務先企業の理解が不可欠。現在、消防団協力事業所は50社前後で変動していないので、拡充に働き掛けていただきたい。 ・ 小学校に出向いて消防に関する学習を行い普及に努めている。子ども達は非常に熱心に学習し、装備に触れて喜んでいる。非常に大事なことであり、続けていかないといけない。また、団員でもある先生が授業で消防の話をされた例もある。子ども達への働き掛けについては、教育委員会と共同で進めていただきたいと思います。 ・ 昨年11月に「予防的避難」の研修を受講した。住民の方々に「予防的避難」が浸透していないので、今後、啓発を進めていただきたい。 	

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 子どもから高齢者まで利用できる「防災研修センター」が松江市にもあると良い。・ 消防団の役割は、「消火」だけでなく、現在は「防災」というテーマも担っている。地域の防災リーダーとして資質向上に努めており、引き続き研修等の機会を確保していただきたい。・ 松江市が「防災士」の資格取得に対し全額補助する制度についても活用したい。一方、地域の中で組織化されているのは消防団であり、引き続き消防団としての研鑽を積んでいきたい。防災士の資格取得後は情報が入りにくいので、3年に1回程度、研修を行っていただきたい。・ 女性分団員は22名で、独自の活動も行っている。・ 防犯カメラが設置されれば、行方不明者の捜索に有効である。 |
|--|--|

松江市議会議長 様

令和2年2月21日

議会基本条例第7条の規定により議会報告会(意見交換会)を実施しましたので報告します。

令和元年度 議会報告会(意見交換会)

総務委員会委員長 出川 桃子